

富山県におけるマシジミの分布 (短報)

土井 捷三郎
(1993年1月19日受理)

Distribution of the Common Freshwater Clam, *Corbicula*
(*Colbiculina*) *leana* PRIME in Toyama Prefecture (Short Paper)

Shozaburo DOI*

The distribution of the common freshwater clam, *Corbicula* (*Colbiculina*) *leana*, in Toyama Prefecture was investigated from April to November 1992 through interviews and personal observation. The clam was distributed in 20 sites in Toyama Prefecture, of which eleven had not been previously recorded. The shell length ranged from 6.5 to 28.0 mm and the ages were estimated to be between 3 months and 7 years.

Key words: common freshwater clam, distribution, *Corbicula* (*Colbiculina*) *leana*, Toyama Prefecture

マシジミ *Corbicula* (*Colbiculina*) *leana* は北海道、本州、四国、九州、岐阜、朝鮮、中国の河川、池沼の砂質泥底、砂底、砂礫底に生息し、雌雄同体、卵胎性の二枚貝である(宮崎 1936)。汽水域にも一部は分布するという報告もある(藤原 1982)。富山県内のマシジミに関する知見は環境庁(1988)が9ヶ所(魚津市宮津及び出、富山市古沢及び坪上、小杉町椎上、戸破及び大江、砺波市太郎丸及び小坂)と報告しているもののみである。

著者は1992年5月30日に富山県立山町の農業用水溝内でマシジミの新たな分布を確認し調査した。1992年6月30日、報道機関に対して、今回の新たなマシジミ分布確認記事を報道することとその他の地域における分布等に関する情報の提供を依頼した。その後11月までの間県内一円で聞き取り調査を行ない、結果をとりまとめたので報告する。

新たにマシジミの分布を確認した場所は富山県中新川郡立山町女川新地内(Fig. 1)のコンクリートで造られた常願寺川水系の農業用水溝であった。その底には砂礫泥が堆積しており、その用水溝は幅が約25cmで、2.5~6cmの深さで流速毎秒約30cmの河川水が流れていた。堆積した底砂の厚さは7.5~10.0cmで、マシジミは底砂の中に埋没した形で生息し、視認はできないが、徒手による採集は容易であった。この箇所と同水系の上・下流のそれぞれ5kmの範囲で調査したところ、コンクリート底面に砂礫泥が堆積した場所のうち、数10ヶ所でマシジミが確認できたため、同水系には相当広い範囲で分布していると考えられた。付近の古老の話では、1960年代までは用水路のいたるところに分布し食用に供していたがその後絶滅したと思っていたとのことであった。

女川新地内のこの場所で1992年6月17日に297個体のマシジミを採集し、後日重量、殻

*富山県水産試験場 (Toyama Prefectural Fisheries Experiment Station, Namerikawa, Toyama 936, Japan)
富山県水産試験場業績A第24号

Table 1. Annual catch of *Corbicula* in Toyama Prefecture.

Year	Total Catch (ton)	Hojyozugata (ton)	Junichogata (ton)
1955	140.3	138.4	1.9
1960	158.6	158.4	0.2
1961	154.2	154.1	0.2
1962	135.2	135.1	0.1
1963	112.0	112.0	0.0
1964	75.0	75.0	—
1965	0.0	0.0	—
1975	0.0	—	—
1990	0.0	—	—

長の測定を行ったところ、殻長は6.5~28.0mmの範囲で平均16.8mm、体重は0.09~6.55gの範囲で平均1.67gであった (Fig. 2)。これを平野・藤原 (1987) の成長式から年令を推定すると、生後約3ヵ月から7年8月と推定された。用水の長さ26mの間で調べた分布密度は、100cm²当り7.8~36.2個体の範囲で、平均15.6個体であった。上・下流の5km範囲についても調査したがこの場所がもっとも高密度であり、森 (1973) の養殖適正流速条件 (流速が毎秒15cm以下では浮泥が堆積しやすく、60cm以上では流れが強すぎ、30cm前後が最も適当。) と一致した当該地点の環境条件が高密度をもたらしたものと考えられる。

富山県のマシジミの漁獲量に関する統計資料は発見されなかった。Table 1は富山県における「シジミ」の漁獲量*を示す。かつてヤマトシジミが生息したと思われる放生津瀉、十二町瀉はともに汽水湖であったが、富山新港の開設と乾田事業により漁場が消滅した。「シジミ」の種類は、富山新港史編さん委員会 (1973) の報告によるとヤマトシジミ (*C. japonica*)、セタシジミ (*C. sanndai*) 及びマシジミであった。

富山県内におけるマシジミの分布を聞き取り調査と提供された情報にもとづきFig. 1に取りまとめた。情報は居住地帯の合計20ヶ所からよせられたものであった。いずれも、「昔は分布し、各家庭で惣菜として利用していたが、昭和40年代以降の河川改修と農薬散布の影響から絶滅したと思っていたにもかかわらず、今回生息が確認出来た。」という但し書が添えられていた。さらに今では獣類の餌になっているという報告もあった。今回の生息情報は県東部地域に偏りがみられるが、近年の河川構造の改善及び使用農薬の低毒化など、河川環境改善の動きはマシジミの分布域、生息量の増加に拍車がかかるものと期待され、養殖の可能性等新たな水産資源として今後調査研究を推進することが重要である。

*富山県農林水産統計年報 (昭和30, 35~40, 50, 平成2年)

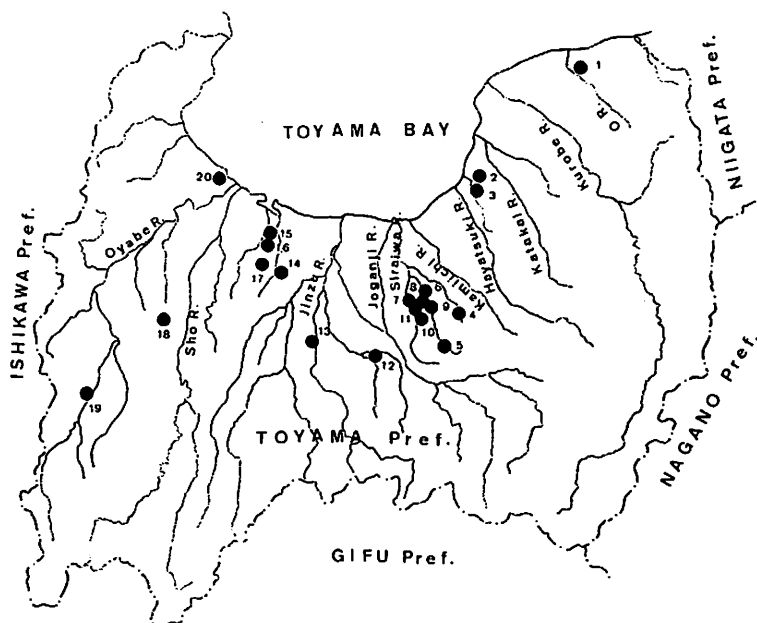


Fig. 1 Distribution records of common freshwater clam, *Corbicula (Colbiculina) leana* in Toyama Prefecture.

1, Nanbo(Asahi Town) 2, Miyazu(Uozu City) 3, Ide(Uozu City) 4, Kurokawa(Kamiichi Town) 5, Shiraiwa(Kamiichi Town) 6, Houdogase-shin(Kamiichi Town) 7, Urada(Tateyama Town) 8, Tsuji(Tateyama Town) 9, Onagawa-shin(Tateyama Town) 10, Takahara(Tateyama Town) 11, Shinmura(Tateyama Town) 12, Kamiima(Toyama City) 13, Oshiage(Toyama City) 14, Furusawa(Toyama City) 15, Daigo(Kosugi Town) 16, Hibari(Kosugi Town) 17, Shiigami(Kosugi Town) 18, Taromaru(Tonami City) 19, Kosaka(Tonami City) 20, Fushikikokubu(Takaoka City)

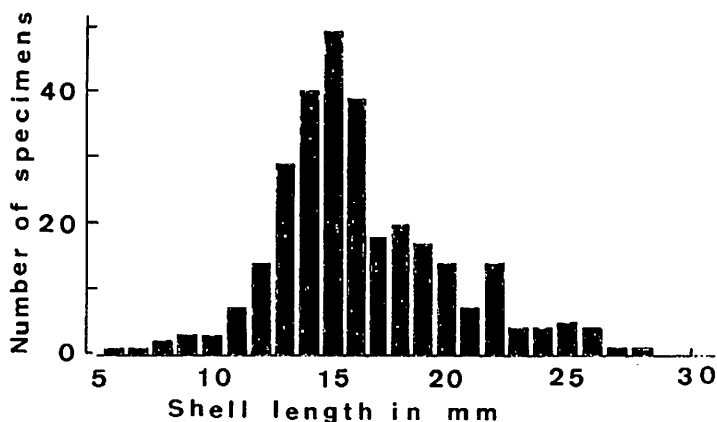


Fig. 2 Frequency distribution of shell length of common freshwater clam, *Corbicula (Colbiculina) leana*.

謝 辞

立山町立立山北部小学校の金田校長先生及び5, 6年生の生徒には校下の分布調査をお願いし, 上市町の井原 吾氏, 立山町の黒田 勇氏, 富山市の小畔英一氏をはじめ多くの方々から生息に関する情報を頂いた。また, 東京水産大学奥谷喬司博士には校閲をお願いした。ここに記して感謝の意を表します。

文 献

- 環境庁 1988. 第3回自然環境保全基礎調査報告書.
藤原次男 1982. 汽水域で採集されたマシジミ. 日水誌 40(1): 121.
平野克己・藤原次男 1987. マシジミの成長と寿命. 水産増殖. 35(3): 183-189.
森 繁喜 1973. シジミの養殖. 養殖 10 (11): 62-64.
宮崎一老 1936. シジミの発生に就いて. 日水誌 5: 249-254.
富山新港史編さん委員会 1973. 富山新港史. 65.